

【論点2】 環境の変化を踏まえた青年の船交流事業の在り方について

【主な論点】

1. 船事業の意義
2. (船事業を存続させる場合に) 船事業で維持・強化すべき内容・プログラム
3. (船事業を存続させる場合に) 考えられる船事業の実施方法
4. その他(参加者構成, 他事業との役割分担の見直し等)

1. 船事業の意義

- 他の事業にはない, 船舶を用いた青年国際交流事業の固有の意義としてどのようなものがあるか。
- 「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業それぞれのコアとなる目的・意義をどのように考えるか。それぞれのコアとなる目的・意義と船を使用することの意義はどのような関係にあるか。

(参考1) 青年国際交流事業で船を用いる意義(資料 4-2)

(参考2) 青年の船交流事業について(資料 4-3)

2. (船事業を存続させる場合に) 船事業で維持・強化すべき内容・プログラム

- 各事業のコアとなる目的・意義に照らし、「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業のそれぞれでどのような内容・プログラムを維持・強化すべきか。また、見直すべき内容・プログラムは何か。維持・強化すべきプログラムと船を使用することの意義はどのような関係にあるか。

(参考1) 青年の船交流事業について (資料 4-3)

(参考2) 「青年国際交流事業の在り方検討会報告書」(参考資料2) (抜粋)

(新たなプログラムの方向性)

- ・ 意欲の高い青年の参加に向けた「プログラムの魅力向上」, 「仕事・学業との両立が可能なプログラムの設計」, 「広報の強化, 選考の充実, 多様性重視枠の創設」
- ・ 「船上での共同生活」と「実践の場」を組み合わせたプログラム構成
- ・ 長期の閉鎖空間によるリスクを回避
- ・ 上記の観点から, 船上で共同生活しながら, 国内の複数の地域に入って社会実践活動を行う形式により実施
- ・ デジタルなど新たな技術も活用しながら, チームビルディングなどのオンライン交流を充実
- ・ 地域の社会実践活動には, 地方公共団体や同窓会組織 (IYEO) と積極的に連携
- ・ その他, 事業強化の視点を踏まえた評価を行い, 運営体制の充実も図りながら, 事業の充実を図る

(別紙) 新プログラムのイメージ (参考資料1 参照)

3. (船事業を存続させる場合に) 考えられる船事業の実施方法

- 「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業それぞれのコアとなる目的・意義, 維持・強化すべき内容・プログラム, 事業の安定的・継続的実施等の観点から, 各実施方法はどのように評価できるか。
- 事業各実施方法にデメリットや課題が想定される場合, どのような運用の改善により軽減が可能か。
- 事業の安定的・継続実施の観点から「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業のそれぞれについて, 公費以外のリソースを活用すべき, という意見をどう考えるか。

(参考1) 船の使用を継続する場合に考えられる事業実施方法の比較 (資料 4-4)

(参考2) 公費以外のリソースとして指摘されるものの例

- ・外国政府の協力
 - ※ 「東南アジア青年の船」事業においては, 現在, 寄港国政府が寄港地プログラムを企画し, 経費を負担
- ・民間 (企業, OB 等。海外を含む。) の協力・協賛
- ・参加青年の参加費
 - ※ 船事業においては, 日本人参加青年が 30 万円程度を参加費として支払い (経済的理由による免除の仕組みあり)。

4. その他

- 事業のコアとなる目的・意義に照らし, 「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業のそれぞれの参加者構成等をどう考えるか。
- 「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業と, 他の内閣府青年国際交流事業との役割分担等は どう考えるか。

(参考) 青年の船交流事業について (資料 4-3)

(以上)